



プロジェクトニュース

シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「復興パイロットプロジェクトの選定開始」号

2016年11月4日号 (Vol.35)

カンビア県およびポートロコ県議会の行政官や県の担当セクター事務所関係者と、エボラ出血熱により疲弊したコミュニティの復興を支援するためのパイロットプロジェクトの選定を行いました。選定の基本方針は、主要な関係者で構成される合同調整委員会 (JCC) で合意された、(1) エボラ復興から開発への関与、(2) 県の開発計画との整合性、(3) 技術面 (予算規模、実施期間、他ドナーとの重複) との整合性、の3つです。膨大なニーズと限られた予算の中でどのようにプロジェクトの選定を行うべきか、両県の担当者らと協議を重ねました。

両県とも「まずはパイロットプロジェクトを実施する優先セクターを特定し、各優先セクターについてプロジェクトの内容を決定した後、実施対象サイトを選定する」という手順を踏むことで合意しました。



パイロットプロジェクト選定のための会議 (ポートロコ県)



主要メンバーが思案中 (ポートロコ県)

優先セクターは、既存計画との整合性やコミュニティのニーズから、両県ともに教育・保健・プライベートセクターの3つが特定されました。各セクター職員と県行政官の協働のもと、複数のプロジェクト案が策定され、その中からクライテリアに沿って各セクターにつきプロジェクト案が1つ選定されました。選定されたプロジェクト案に対して、対象地域候補を各セクターから複数挙げてもらいました。これら候補地から一番脆弱と判断される地域を、「地域の脆弱性」等の視点から複数のクライテリアを用いて、ランク付けを行って決定し、可能な限りバイアスのかからない過程を経て、候補地の選定を行いました。

ポートロコ県では、これらの作業を通じ、「本当に支援が必要な地域はどこなのか、それをどのように判断するのか」「エボラの影響と、支援の必要な地区の脆弱性をどのように計るのか」等、特に中心的役割を果たした副主席行政官、村落開発担当官が相当に悩みました。時には、開発計画担当官、エンジニア、環境担当官を交えて、喧嘩が勃発したのかと思われるような白熱した議論を繰り広げました。このように時には紛糾しながら、試行錯誤の上、選定作業を終えました。特に、「裏付けとなるデータの不足や管理の甘さ」「県議会と県のセクター事務所間の連携の在り方」等、自分達の活動の甘さについて、今後の教訓が得られたようです。

そして、最終的には、両県において復興パイロットプロジェクトの内容と、実施するサイトが決定しました。次回は、決定したパイロットプロジェクトや地域等をお知らせできると思うので、ご期待を！



パイロットプロジェクト選定に向けたセクターとの会議



パイロットプロジェクト選定の元となる県開発計画（復興支援版）を策定中